

近世在郷町における祭礼の成立と展開

下総国佐原村本宿の豪家・村組・町

宇野功一

The Establishment and Development of a Festival in a Rural Town during the Early Modern Period: on the Case of Honjuku in Sawara-Mura, Shimousa

はじめに

- ① 佐原村の概要
- ② 祇園祭礼の成立
- ③ 祇園祭礼の展開
- ④ その後の祇園祭礼
- むすび

[黒田徹司]

近世下総国香取郡佐原村は利根川舟運の一拠点として江戸時代を通じて栄えた。元禄八(一六九五)年にはすでに町場が広く形成されて在郷町となつておあり、元文五(一七四〇)年には三八一九人もの人口を抱える関東でも有数の大村となつておいた。この村は本宿と新宿という二つの地域に分かれていた。本宿はさらに三つの(実質的には二つの)「組」と呼ばれる社会的・地域的集団に分かれ、経済的発展を背景に組内には「町」が形成されていった。

この本宿でなされる祇園祭礼を例に、近世在郷町における祭礼の成立と展開の一例を示した。本宿にはもともと祭礼といえるほど規模の大きい祭りではなく、本宿總鎮守の天王社によつて六月に浜下り神事と祇園神事という二つの神事がおこなわれていた。これを実際に主導したのが本宿の有力者で、それぞれ二つの組を代表していた二つの家の当主である。ところが元禄一六(一七〇三)年から、両神事が統合されて御旅所

への逗留と神輿の巡行(行幸と還幸)が加わり、一統きの祭礼が成立した。これが祇園祭礼である。

祇園祭礼は次第に整備されていった。とくに明和四(一七六七)年に還幸の範囲が本宿全町に拡大すると、翌年から町々では山車などの練り物を本格的に出すようになり、祭礼の規模は拡大した。しかし神輿行列に付ける練り物の順番をめぐつて町間で激しい対立が生じた。最終的には練り物行列が神輿行列を先導する形で一つの大きな祭礼行列が形成された。この対立の過程で町々は組の統制を脱した。その結果、二つの神事の運営は引き続き有力者が、二つの行列の運営は町々がおこなうという形式が文政五(一八二二)年までには確立されたと考えられる。組を単位として村内の有力者が主導していた神事に神幸が加わり祭礼化した結果、村内に成立していた町々が祭礼行列の運営主体となつていったのである。